

## 第 1 回 学識者懇談会・検討小委員会座長会議

【日時】平成 19 年 2 月 15 日 15:00~17:00

【場所】博多シティセンター（博多シティホテル）5F 阿蘇

### 1. 開会

大井課長 開会にあたり、九州運輸局計画調整官松元よりご挨拶申し上げます。

### 2. 開会あいさつ

松元調整官 本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。  
九州圏ではプレ協議会を 11 月 30 日に立ち上げ、計画策定に動き出したところ。これまでの議論から、「生活の安全と豊かな環境」、「地域の自立的発展」、「活力ある経済社会」の 3 つを柱として進めていくこととなっている。3 つの切り口をテーマに検討小委員会を開催することになり、委員の方々には委員就任をご快諾いただき、お礼申し上げます。今後、九州独自のオリジナルな計画とするべく、策定プロセスでは有識者をゲストスピーカーとして迎え、一般の方にはインターネットにより意見を聞き、多様な主体の意見反映の仕組みを設けている。平成 20 年の中ごろまでに計画を策定する予定である。急務だが、ここにお集まりの皆様  
の英知を結集して、策定していきたい。  
ご協力をよろしく願います。

大井課長 <資料の確認>  
<委員の紹介>  
それでは、議事に移らせていただきます。議事は学識者懇談会矢田委員長に進行・取りまとめをお願いします。よろしく願います。

### 3. 議題

矢田委員長 議題の 1 と 2 を一括して説明してもらおう。今日の中心は議題の 3 であり、ここを議論し、議題 4 当面のスケジュールと、3 段階に分けて進めていく。それでは資料 1 と資料 2 について説明をお願いします。

(1) これまでの経緯について

(2) 全体マネジメントとキックオフレポートの作成手順について

赤星課長 <資料 1、2 説明>  
調整官の挨拶にあったように、11 月 30 日プレ協議会が設立され、本格的な議論をスタートした。資料 1 - 2。今日お集まりの先生方、またプレ協議会のメンバーの協力で、ここまで進めてきた。これまでの経緯を説明する。8 月 23 日に準備会を政令メンバー（九州圏 7 県 2 政令市と国の 11 支分局）の課長クラスで構成する作業チームで、計画部会の 5 つの論点を考慮し、メンバーに論点の抽出依頼を行った。これで集まったのが 281 件。その後、中間取りまとめ構成及び九州ら

しさという視点で、2回目の抽出依頼を行った。これで141件、合わせて422件を、A九州固有の論点、B全国共通の論点、C県域を超えた九州固有の論点に分類した。そのほかD有識者の方々の意見及び国のレポートを論点とし、集約整理し、16の論点に分けた。それをさらに、3つのテーマ区分で、3つの検討小委員会で、検討を進めようという方向性のもと、プレ準備会を開催した。政令メンバーに加え、隣接する団体（山口県、沖縄県）市長会、町村会、経済界（九経連と商工会）国の支分局・大阪航空局、合わせて28機関・団体で構成されるプレ協議会が開催された。こうした経緯を経て本日の学識懇談会・検討小委員会座長会議に至っている。ここでは16の大区分を、中間とりまとめを考慮しながら、11に絞り込んでみた。学識者懇談会、検討小委員会のメンバーは資料1-1のとおり。

検討スタイルについては資料1-3。3つの検討小委員会で各テーマを議論していただく形でスタートするが、全国計画との整合性、全国共通の課題でも九州独自の切り口からの論点、九州ならではの論点、全国をリードする論点を織り交ぜて検討小委員会で議論する。検討小委員会の取りまとめ機関として課長クラスで構成されるプレ幹事会を設置、小委員会の内容を修復・補完し、さらに検討小委員会で検討する、という循環を予定している。資料2-1と比較すると、全国の計画が今年の中頃（8月くらいと予想）これに合わせて本協議会を立ち上げる予定である。2月から8月まで6ヶ月足らずと時間がなく、検討小委員会を円滑・迅速に進めながら、なおかつ確な段階ごとのレポートをプレ協議会に上程するため、資料2-1のような手順にモデルチェンジした。資料2-1で皆様の意見を頂戴しながら、本日進めていきたいと思う。皆様からいただいた422の論点をさらに有識者、学識者に見ていただくアンケートを実施し、今回のような学識者および座長の会議を開催する。皆様の下で議論の方向性を見定めていただきたい。方向性が決まると、各検討小委員会へ付議し、全体の骨組みを決める。中間レポートという形でスケルトンから基本シナリオを7月中旬に取りまとめ、8月の協議会へキックオフレポートとして上程する予定。手戻りのないように進めたい。資料2-2。時代潮流と九州の特性を活かすための課題を抽出する。また時代潮流から九州の新しい姿が見えてくるので、それらをもとに方向性と重要施策・プロジェクトを組み立ててまとめる。

次ページは検討小委員会へ向けて、方向性をまとめたもの。422の論点ならびに九州管内の自治体首長等の意見を別途聴取しながら、論点整理として取りまとめた。そこで方向性を11とした。各検討小委員会で作成されたレポートをプレ幹事会に持ち上げ、さらにこうした合同会議の場で議論し、プレ協議会にあげる。検討小委員会のミッションは検討作業をリードする役割を担う。最終成果であるキックオフレポートは、以下の項目を具備する。

将来像を踏まえた上で、国土形成に向けての課題と対応について目標を定める。

目標達成に向けての施策をまとめ上げる。検討小委員会は、共通課題、輻輳する課題が多いので、手戻りのないよう進めるために、3つのプロセスを考えた。第1段階で、論点の共通認識をもつ。これを元に、第2段階で中間報告骨子、いわゆるスケルトンを作成する。第3段階で骨子の肉付けをする。次の5ページは、広域の見地について、考え方の例を掲載している。第1は整備

対象がひとつの都府県の区域を超える。危機管理上のリダンダンシー、多重軸が必要ではないか。第2は、利用する国民の皆さまがひとつの都府県を超える。流域圏のネットワークなど。第3は連携とキーワードで、島嶼部、中山間地域の話。これらを意識しながら検討小委員会で議論していただく。

検討小委員会とつかず離れずの距離で実務者会議がある。現在プレ幹事会といっているが、学識者懇談会からの意見聴取を経て、プレ協議会に上げる。次いでキックオフレポート案としてプレ協議会に上げる。プレ協議会はキックオフレポート案を審議していただき、本協議会に上程する。学識者懇談会については、各検討小委員会における議論や作業の方向性について助言する役割。学識者懇談会・検討小委員会座長会議は、全体を見渡しながらか、横断的に調整する。幹事会から上程された成果に対し、意見を述べる。

矢田委員長 2005年に、法が改正され、計画を地方で作るということになった。今回初めての作業であり、大変複雑になっている。ご意見、ご質問があれば。

樽木委員 九州のオリジナリティをしっかりと踏まえようということであれば、全国と違ったものが出てくる可能性があるが、どういうふうに考えればいいのか。小委員会でも実質的に検討しろということであるが、外にこの学識者懇談会の委員がオブザーバーが入っている。役割の違いを教えてください。

赤星課長 全国8つの広域に分かれて展開するわけであるが、全国のものに合致したものにすると五全総と同じになってしまう。九州のうまみ(強み等)特性を反映したい。面白み、強みをしっかり掲げて九州は全国をリードすることをやっていると評価されるようにやっていきたい。2番目のご意見については、学識者懇談会が検討小委員会から離れた立場でいると、中身が分からないまま論点が展開してしまう。座長と学識者の合同会議の場もあるが、学識者懇談会の委員の方々には、少しでもオブザーバーとしての役目を果たしていただき、検討小委員会に実のある意見をいただければと思う。

矢田委員長 各4回で3つあるので12回の開催となる。検討小委員会の委員のスケジュールを中心に日程調整をし、学識懇談会の委員は興味があるとか意見が言いたいという委員会に出席していただきたい。お目付け役というより連絡役。全国の計画では専門委員会が多く開催され、細かいところまで議論されている。ただ、プロジェクトについてはまったく議論されていないので、そこは地域での議論となっている。全国計画をトレースしすぎる危惧があるので、こちらでは自由に議論していただきたい、ということ。

玉川委員 中間とりまとめを読んだが、「新しい公」の印象が強い。民間が絡んで、新しい主体を形成しようというのが特徴的。しかし16項目の論点の中に、姿が見えない。この辺りをどのように評価しているのかうかがいたい。

赤星課長 たとえば、資料2-2の3ページに11項目あるが、7. チャレンジ社会の基盤整備と参加型社会の実現、ここに担い手が少なくなったときに、いろいろな主体が基盤整備や施設管理をすることになるといった「新たな公」の記述が出てくると考えている。

矢田委員長 どんどん提案していただきたい。新鮮な割には実態がまったく分からない。地域づくりの主体を思い切って切り替えたいという意味が読み取れるが、その手段は地域で検討しろということかと考えている。

矢田委員長 2 番目の検討小委員会は九州山地を対象として考えていただきたいという思いがある。全国計画は各省庁が事務局のような形で書いてあるので、縦割りになっている。横割りの議論を展開していただきたいと考えている。中身の議論に入っているの、次の議題に移りたいと思う。シナリオ展開のイメージのたたき台の資料説明をお願いします。

### (3) 論点の反映方法と今後のシナリオ展開イメージ

事務局

<資料3の説明>

政令メンバー、首長等が小項目で提案されているものを再整理した。論点として提示された小項目は2つ色合いが違うものが混じっていた。対応の方向性に関するものと、手段を書いているものが混在していたので、これを分類した。各検討小委員会でテーマを3つくらいに絞って、議論してもらおうと考えた。しかし、どうしても2つの委員会に重なるテーマ、視点を変えて議論していただいた方がいいテーマがあったので2つが追加され、11になった。条件不利地域の自立的発展については、国土保全の観点から見ると、「生活の安全と豊かな環境を目指す小委員会」と共同して議論すべきと考えている。もう1つは、各地域が自立するための生活の糧を得るということであれば、産業振興ということになり、そうすると活力ある東アジアと切り離して考えられないだろうと考えた。したがって「活力ある経済社会を目指す小委員会」でも議論いただくことを考えている。

「新たな公」はどこにあるかということだが、1つは「生活の安全と豊かな環境を目指す小委員会」の3番、他は「自立的発展を目指す小委員会」の中の7番。「新たな公」というキーワードだけでも複数の委員会で挙がっているが、共通項として整理していない。まだ不完全な状態であり、未定の部分もあるが、各検討小委員会で3つくらいのテーマを扱って、機動的に動けるように考えている。首長に照会した論点は、方向性や提案についての記述が多く、主に資料の右側の課題に反映させている。左側は第1回委員会のための資料作成のための課題出しを我々で作成したものである。

矢田委員長 シナリオ展開イメージということで、幅広の説明をいただいた。意見をいただきたい。

甲斐副委員長 アジアとの関係は、いろいろインパクトがあると思うが、九州にとってみると、オーストラリアとの関係がEPAなどで影響が大きい。東アジアと書いてあるが、東南アジアとの関係はどうなるのか。タイなどとのEPAなどの影響、人的にもそうだが、農産物関係。また就業機会や少子化対策はどうなるか。

外井座長 「活力ある経済社会を目指す小委員会」は東アジアとの関係だけのように思っているが、国内との関係もあるのではないか。この資料は出てきたものをまとめただけだと思うので、別の視点から追加していけばよいのでは。

甲斐副委員長 九州は東京から遠いため、就業機会がない。新たな過疎過密が生じているように感じている。活力ある経済社会を目指すべきだが、そもそも人がいなくなっていくような地域はどうするか。

矢田委員長 「活力ある経済発展の小委員会」がアジア一色なのはいかがなものかと感じている。

事務局 ほかの地域ブロックとの競争上の戦略を意識して、東アジアを強調して書いた。

- 皆様からいただいた論点が東アジアばかりだったということではない。地元向けのサービス産業などもある。シフトしすぎると議論がやりにくいとの座長からの意見もあるので、修正を。
- 矢田委員長
- 井上座長 歴史というキーワードが入っていない背景を説明いただきたい。
- 玉川委員 同じことを考えていた。もう少し文化、歴史、景観、九州全体の美しさということが出てきてよいのでは。集落は壊滅状態の地域もある。将来を見ると、すさまじい状況になる。もう少し強い現状認識に基づいた検討小委員会の論点の立て方があってよいのでは。議論の方向も従来と同じようになってしまうのではという危惧がある。
- 小川(全)委員 九州の課題として、東西格差がある。発展するであろう福岡、北九州とのつながり・一体性をイメージすることができずに、逆に九州内格差を拡大することになる恐れがある。集落で支えてきたという歴史があるが、集落があることを前提にやってきた自治体も担い手がなくなってしまう。経済の動きも市場経済だけではなく、公共経済も集落を当てにしている。共通した課題を見出せないと、九州の個性を生かした国土形成にならないのでは。文化、歴史、自然環境などの九州の持っている個性を活用できないのでは。3つの検討小委員会はまさに仮置きのような気がするので、委員の皆さんで課題を共通認識するため検討したほうがよいのでは。
- 小川(雄)委員 環境問題に対する対応が弱いと感じる。東アジアとの関係も環境問題で捉えられる。動脈物流で捉えられているが、静脈物流（廃棄物など）の面で捉える必要があるだろう。
- 榎木委員 3つの検討小委員会の課題を整理した方がよいのではないかと感じている。「生活の安全と豊かな環境を目指す小委員会」と「活力ある経済社会を目指す小委員会」は、その言葉で何をすべきか理解できるが、「自立的発展を目指す小委員会」は右にも左にも関係するし、これだけで独自の課題は何があるだろうか、と感じる。ここは小委員会の名前から再検討したほうがよいのでは。3つに分ける課題と共通して検討する課題がある。これからはいろんな意味で「安全・安心」が重要だと個人的には考えている。SARS やインフルエンザなども含めて問題があり、九州はその最前線に立たされている。横断的に捉えて、九州の「安全・安心」をしっかりと考えていくべき。犯罪でも、外国人だけでなく日本人も犯罪を起こす。玉川委員のご発言にあったように、文化は重要。産業も大事でしっかりやっていたかなければならないが、将来を展望したときに、文化が生き残るジャンルではないかと思う。文化があるところに将来の展望がある。文化は3つの検討小委員会で分けられるものではなく、共通的に検討すべきではないか。
- 甲斐副委員長 いろんな担い手を考えるに際しては、人口予測、人口がどのように変化するかという共通の認識が必要ではないか。データを認識しないと、議論が絵に描いた餅になってしまう。もう1つは産業連関表を見て、どういう風に産業が変化しようとしているのかを共有しておくべき。
- 矢田委員長 五全総でも、文化が非常に強調され一生懸命書いていたが、国土計画がらみで実行する機関がない。文部省が国土計画に絡んでいないため、文化、歴史は不可欠だと認識しながら具体化していない。項目主義になっているので、九州全体を視野に入れるため、九州の地図をもってきて、どの集落がどうなるのかデータを集

めて最悪の事態を認識しなければならない。認識したうえで、どういう政策が必要か検討するべき。ヒアリングをしても項目が出てくるだけ。項目主義で落とすと空間構造の話にならない。集落の消滅が起こるのは抗いがたい事実。どういう着点を見出すかは哲学なので、検討しなければならない。ただし、空間だけで7県の計画をパッチワークしただけになって困る。東西格差、南北格差、都市と農村を目に見える形にしなければ。項目と地名をクロスしたところで我々はデザインすべき。九州の圏土構造をどうするかというのが最大の課題であると考えている。

樽木委員 文化については、地域の方々が自ら文化を考えて、それを来てくれる人たちに伝えるボランティアもたくさんある。社会としても交流社会を支援していくためには、文化は非常に大事。交通網も文化を意識した道筋にすることもできる。文化は抽象的に語られることが多いが、細かいことの積み重ねで文化を実現することは可能。

矢田委員長 文化、歴史と「新たな公」をくっつけて、九州からモデルを出していきたいと考えている。

玉川委員 人口減と高齢化でぼろぼろになる集落があるだろう。小さな山村で山を隅々まで管理する必要はあるのか。山は再生能力を持っている。たとえば、棚田が観光資源だからといってすべてを保存しろという話にはならない。もう少し現実に踏み込んだ論議がほしい。

矢田委員長 今までは省庁の具体的なプロジェクトに予算をつけるための10年間のデザインであった。具体的な生活実感から生まれたものではなかった。それが、今度は地域で計画を策定することになった。国ではなく、住民に投げかけてもいいのではないかとはいっても時間が限られているので、言うは易く行うは難しい。では次の議題に移りたいと思う。

#### (4) 当面のスケジュール

赤星課長 <資料4説明>

論点については、もう一度整理しながら、検討小委員会で議論する事項について座長に事前に送付してご意見をいただくことにする。論点と作業方針の審議を3月上旬に第1回の検討小委員会でしていただく。次に第2回の検討小委員会で4月中旬に骨子を審議していただく。破線で示しているのは、必ずしも必要ではなく適宜開催するということを意味する。第2回プレ幹事会では、中間報告骨子案の報告、さらに中身の議論をし、キックオフレポートとしてまとめる骨組みを作成いただく。その後、今回のような合同会議を実施し、キックオフレポート中間報告スケルトンに対する意見・助言をいただく。その途中に合意形成の場として第2回プレ協議会を5月下旬に行う。検討小委員会で議論が深まるので、第3回プレ幹事会に報告いただく。第3回プレ協議会でキックオフレポート案を審議し合意形成を図る。キックオフレポート案を本協議会上程していただき、第1回協議会で審議いただく予定となっている。

矢田委員長 資料3の分け方、テーマ設定について、ご意見が多いので、ここで再整理したいと思う。たとえば、小委員会1は「東アジア全体の環境問題を含めて「安心・安全と環境」、小委員会2は「南九州をイメージに置いた総合的なテーマ」、小委員会

3は「アジアと北部九州の産業集積、学術集積、都市集積」を軸にテーマ設定する。もちろん最後は交錯する。具体的な地域を意識して検討して、それを他の地域にも応用すればよいのでは。小委員会1は「環境問題と安心・安全」、小委員会2は「九州特有の九州山地の1次産業、観光資源」、小委員会3は「産業集積、都市集積、学術集積、アジア」。テーマはこのままで、地名を入れて、項目主義の弊害を脱していただきたい。この場に座長はおりませんが、第1の検討小委員会では東アジアを全部入れて議論していただくようにしたい。

井上座長 キックオフレポートの中身の問題になると思う。ここでは非常に細かいものを出そうというイメージになっている。市民に対して言うときに、自由に住めるが自分の生活環境を自分で守る方向か、住むところを制約する方向か、大きな方向性に対して、考え方をまとめたものをキックオフレポートに盛り込むくらいでよいのでは。

矢田委員長 自由至上主義と規制の話は非常に難しい問題。自由に行くと、人口の問題がどうなるか、最悪のシナリオは作成できる。たとえば「新たな公」ができれば、ぼろぼろになるところの2、3割はどうにかなる、ということが書ければ成功ではないだろうか。

小川(全)委員 九州らしさを出せるのは、「自立的発展を目指す小委員会」だと思う。ブロック計画であり、国が何かしてくれるというものではない。各県、市町村、及び住民がここをどうつくるか、ということが重要。省庁割りを越えた新しい共通九州圏政策となる。行政の枠組みにこだわってはいだめで、国がキーワードとして出してくれた「新たな公」がやるということでもいいのでは。具体的には今まで実現されていない文化でもよいし、環境や交流でもよい。ほかの2つの小委員会は、ほかの地域で考えても似たような論議になると思う。第2の検討小委員会は自分たちで作るのだというところを打ち出してほしい。

井上座長 第2の検討小委員会の責任者であるが、キックオフレポートにメニューを整理しようとするのはやめた方がいいのでは、という意味で申し上げた。

矢田委員長 第2の検討小委員会が複合的な要素を入れて地域に活力をどう入れるか、というイメージが出てくれば成功だと思う。あまり項目にこだわらず、九州山地、南九州がどういう方向性でいくか、オリジナリティが出せるところではないかと思う。

小川(全)委員 中国地方も産業と交流と中山間地、ということで中山間地を特出ししている。  
玉川委員 県境、有明のような複数の県をまたがるもの、そういったものが九州全域から見た問題として提起されていく。そういうものがいくつか提起されて議論される場が欲しい。

矢田委員長 もともと協議会は、県境(横)と省庁(縦)の境を取っ払ってクロスして議論する場になっている。第1の検討小委員会に閉鎖水域(有明・八代)をお願いしましょうか。文化や「新たな公」は第2、第3の両方の検討小委員会で検討してもらおう。ほかに何かありますか。

大井課長 本日はご活発な意見をありがとうございました。今後の議論に活用させていただく。

以上